

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和3年7月7日（水）

2 確認箇所

瓦礫類一時保管エリアP（P1及びP2）

3 確認項目

瓦礫類一時保管エリアP排水枡における全ベータ値上昇事象への対応状況

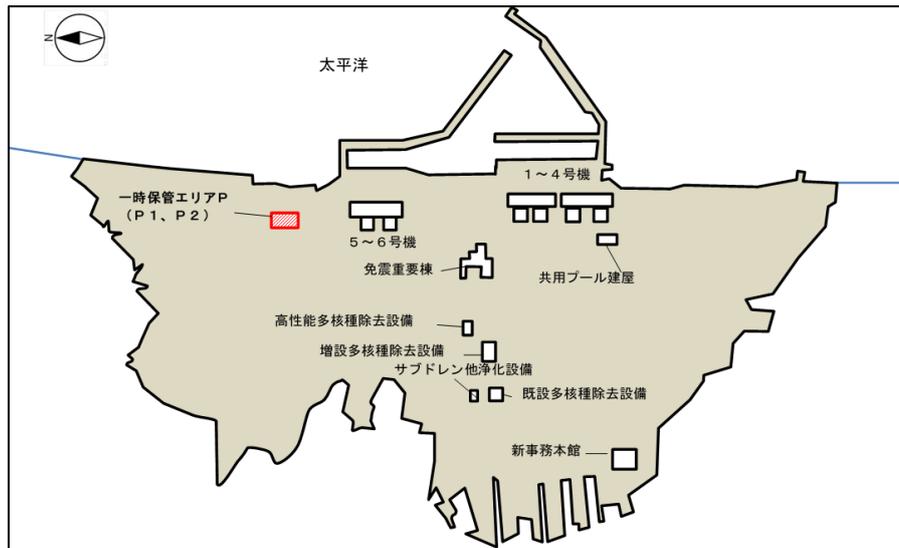
4 確認結果の概要

昨日（7月6日）に引き続き、瓦礫類一時保管エリア（以下「一時保管エリア」という。）P排水枡の放射能分析において、6月29日に採取した検体の全ベータ値が上昇していることが確認された事象への対応状況を確認した。（図1）（前回確認：7月6日）

- ・昨日実施された一時保管エリアP1及びP2周辺のサーベイにおいて、1cm線量当量率（ガンマ）に比べて70 μ m線量当量率（ベータ+ガンマ）が有意に高いことが確認された箇所にあるノッチタンクの側面下部及び周辺地表面がシートで養生されていた。（写真1）
- ・本日は時々雨が降る天気で、シートで養生されたノッチタンク周辺には水溜まりがあったが、地表水がノッチタンクの東側にある排水溝に流入している状況は見られなかった。（写真2）
- ・東京電力では、本日（7月7日）、一時保管エリアP排水枡の全ベータ値が上昇した原因調査のため、一時保管エリアP排水枡、周辺の一時保管エリアの近傍を流れる排水溝や排水枡及び陳場沢川河口の水を採取し、放射能分析を行い、一時保管エリアP排水枡や陳場沢川河口においては検出限界値未満であったものの、一時保管エリアP南側排水溝（写真3）及び東側流入地点（上流）（写真4）の全ベータ値が高いことを確認^{*}しており、この分析結果を踏まえ、一時保管エリアP南側排水溝及び東側流入地点（上流）の排水溝の清掃及びゼオライト土嚢の設置を行うとともに、引き続き、一時保管エリアP排水枡や排水溝の全ベータ値が上昇した原因を調査していくとしている。

※7月7日の放射能分析結果

- ・一時保管エリアP南側排水溝
全ベータ：930Bq/L セシウム137：370Bq/L セシウム134：14Bq/L
- ・東側流入地点（上流）
全ベータ：320Bq/L セシウム137：21Bq/L セシウム134：<0.79Bq/L



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
ノッチタンクの養生の状況
(南東側から撮影)



(写真2)
ノッチタンク東側の状況
(南側から撮影)
※藪の中に排水溝が整備されている

排水溝
(東側流入地点(上流付近))



(写真3)
一時保管エリアP南側排水溝の状況
(南側から撮影)

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。